

県下に於けるスギタニルリシジミの一新産地

吉阪道雄・中谷貴寿

1918年、京都の当時の三高の教授であつた杉谷岩彦氏に依り洛北貴船溪谷より発見されて *Celastrina sugitanii* MATSUMURA として発表を見た全国的に特異な分布を示す此のシジミチョウ科に属するチョウは従来、本県下では松井俊公氏に依つて1952年5月3日、宍粟郡の鳥取県境、戸倉峠(991m)に於て♂♀20教頭が採集されこれが唯一の産地であつた。筆者の一人、吉阪は恐らく他にも産地が有るものと考えその食草トチに関係の有る神崎郡長谷村栃原や美方郡水ノ山にトチの有る事からその希望を託して調査も行つたが今日迄、得られなかつた。ところが本年(1958)4月13日、ウスバシロチョウの幼虫採集の目的を以つて筆者等二名は飾磨郡雪彦山に赴いた処、偶然にも中谷に依つて先づ最初の本種1♂が得られ、二人で採集注意を払つた結果、可成りの本種の産する事を確めた。産地、標高としても重要な意義を持つもので、恐らく県

下に於ける最南部の産地と思われる。我々は多数の乱獲を避けたが往年の名産地、貴船がネットの波と化した大減した事を考えれば憂うべき事もあながち先んずるものではないと考えられるのである。狭義の意味でなく学術的に意義の有る産地として保護して行きたいのが我々の要望である。トチの花穂を喰す幼虫及びその生活史の探査も志して努力したが本年は失敗に終つた。来るべき年には県下でのその生活史の完成を期したい。

尚、成虫標本に就いて我々の所蔵する北海道産(ssp. *ainonica* MURAYAMA)本州(青森・新潟・長野・京都)、九州産(ssp. *kyushuensis* SHIROZU)と比較したが、そのタイプ・ローカリティーの京都貴船ものより可成り裏面は白化に近づき九州産に近似の傾向が(特に♀に於て)見られる事は興味深い。

(25. V. '58記)